

【依知南地区】令和5年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和5年8月30日(水) 午後6時55分～午後7時50分
 会 場: 依知南公民館 2階集会室
 参加者: 地区の自治会長(7名)、公民館地区館長
 市長、副市長、教育長、政策部長、市長室長、センター所長
 (石塚副市長は公務により欠席)

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 コミュニティ交通の推進について	
<p>【下依知自治会】</p> <p>■私が住んでいる地域では高齢化が進み、車を運転できない高齢者世帯が増加しています。数年前に地域にあったスーパーが閉店し、食料品等の買い物に不便を感じています。</p> <p>また、最近、内科の医院が開業しましたが、総合病院に通う場合には、高齢者はタクシーかバスを利用するしかありません。</p> <p>近くに大きなスーパーや総合病院があれば良いのですが、現状ではないため、買い物や総合病院に行くためのコミュニティ交通網を整備してほしいです。</p>	<p>■コミュニティ交通の導入については、その地域の高齢化率や住宅の密度、スーパーや医療機関などの立地状況、地域移動ニーズなどを十分に把握した上で、定時定路線型やタクシー運賃助成など、その地域の特性に合った運行システムを検討することとしています。地域の特性に合った移動手段となるよう、地域の皆様と協議し進めていく必要があると考えています。</p> <p>高齢者バス割引乗車券(かなちゃん手形)購入費助成については、今年12月に販売される半年券から助成額を拡大します。また、高齢者タクシー助成については、対象者が現在の85歳以上から、70歳以上84歳以下で自動車運転免許を保有していない方にまで拡大し、交付枚数についても、年間12枚だったものを48枚に増加しましたので、対象となる方は、是非御活用いただきたいと思っております。</p> <p>また、皆様が日常生活の中で利用するスーパー等の生活利便施設が不足していることは認識しており、多くの方々からも御要望をいただいております。</p> <p>生活利便施設が不足している地域においては、いろいろな助成制度を利用し、企業に進出してもらうよう取り組んでいます。市として民間企業に営業をしていますが、現状、進出までは至っていません。スーパー等を新規出店する場合の支援の要件を緩和し、皆様の生活の利便性が向上するよう、これらの施設の立地促進を図っているところです。</p> <p>(担当課: 地域包括ケア推進課、都市計画課)</p>
意見2 厚木市の農業について	
<p>【金田中部自治会】</p> <p>■金田地区では、持続可能な農業は困難な面があると考えています。</p> <p>山のない金田地区においても鳥獣被害が発生しており、対策をとっていても、植えた量の1割程度しか収穫できないことがありました。鳥獣も、生きるために必死で、里に下りてきています。生息地が狭められたのか、数が増えたのか。鳥獣被害対策は1市町村だけで対応できるものではないと思っておりますので、県央やまなみ等の組織で検討していただきたいです。</p> <p>また、地場農産物等のブランド化については、耕作面積が少ないため、年間を通して販売していただくの量を確保できないと思っておりますが、前向きな方々が集まって小さなグループを作りブランド化に取り組んでいくのも良いのではないのでしょうか。</p> <p>そして、農業の山積する課題を解決していくためにも、若い力や学校での子どもたちへの食農教育を通じて、食料自給率等への関心も高めていく必要があると考えています。</p> <p>「金の田」と書くこの地区に目を向けてみると、優良な農地が減りつつあります。後継者問題があり、生産資材も高騰する中、農業を続けるのか、この機会に農地を手放したいと考える人がいるのも理解できますが、このまま手をこまねているわけにもいきません。</p> <p>厚木の農業について、市長の考えをお聴かせください。</p>	<p>■農業を取り巻く環境は、大変厳しいと認識しています。農業従事者の高齢化、担い手や後継者の不足、飼料や燃油を始めとする生産資材の価格高騰など、農業を営む上での課題や、農地の周辺の都市化という問題もあります。行政だけではなく、農業協同組合と連携させていただきながら、こういった課題の解消と農業に対する支援をしっかりと進めていきたいと考えています。</p> <p>鳥獣被害については、根本的な解決に向けての取組は考えていかなければいけません。まずは農作物をどう守るかについては、電気柵を取り付ける必要がありますし、壊れてしまった電気柵についても補助金を出させていただきながら、取り組んでいきます。</p> <p>山から鳥獣が下りてくることについては、厚木だけではなく、私の掲げる県央姉妹都市構想において、県央やまなみ地区で取組をさせていただき、厚木の農業を守っていきたく考えています。</p> <p>また、子どもたちへの食農教育についても、厚木の農産物を給食の中に取り入れて、子どもたちが厚木産の米や野菜を味わう機会を増やし、食への関心を高めていきます。</p> <p>農業のブランド化については、ブランド価値の生まれる売り方やPRについても研究を進め、厚木の新たな農業の魅力を引き出していけるよう取り組んでいきます。</p> <p>(担当課: 農業政策課、学校給食課)</p>

意見3 (仮称)北部地区公園の整備について

【金田上部自治会】

■関東大震災より100年、東日本大震災から12年経過しましたが、災害対応力を高めるまちづくりは大変重要だと考えています。
依知地区は大災害が発生した時には、川に挟まれていることから、橋が壊れると陸の孤島となってしまいます。
(仮称)北部地区公園は、避難場所の確保や救援物資の供給等、防災拠点としての役割を担うと伺っております。地域住民の命を守る必要不可欠な施設であると考えていますので、早期に実現するよう、積極的に整備を進めてほしいです。

■市域北部においては、防災拠点としての公園が未整備ですので、必要性は十分に認識しています。
災害時には一時避難所等の地域の防災拠点となる地区公園の整備に向けた準備を進めており、先日、公園の施設について検討するため、「(仮称)北部地区公園整備検討会」を発足したところです。
災害が発生する前に、防災拠点となる公園の整備が進むよう、地域の皆様の御協力をいただきつつ、具体的な検討を進めていきます。

(担当課:公園緑地課)

意見4 交通渋滞の緩和について

【長坂自治会】

■朝6時台に国道129号線及び県道601号線(酒井金田線)を通り本厚木駅までバスで向かうと、20分程度で本厚木駅に到着しますが、7時半過ぎから8時前後になると、厚木陸橋付近で川沿いの側道から県道酒井金田線への車が流入し、鮎津橋付近に車が集中するため、40分から50分も要してしまう状況となっています。
このような状況ですので、若者は依知地区を去り都心へと居住地を移していることも事実です。厚木市は広域的な移動にはどこへもアクセスがよいですが、市内の激しい交通渋滞は厚木市全体の問題です。
また、昔は、駅からモノレールを作る構想などもあったそうですが、少子高齢化が進み、高齢者の免許返納も広まる中、バスの運転手の成り手が減少しているとも聞いております。つい先日は、宇都宮のLRTが開通したとのニュースをテレビで見ました。設備投資にお金が掛かりますが、将来に向けて、厚木の新しい交通システムを研究していただきたいです。
道路交通の円滑化と併せて、高齢者から若い人まで安心して移動できる手段を研究していただき、誰にとっても住みよい厚木としていただきたいです。

■市内で発生する交通混雑については、以前から課題となっており、御意見をいただいた国道129号線の交通混雑についても解決していかなければならないと認識しています。
その対策として、現在進められている厚木秦野道路の建設は、本市としても重要事項となります。先日も、国の財務大臣と国土交通省副大臣に直接お会いし、厚木秦野道路の早期整備に向けて要望をしたところです。
新たな交通システムについてのお話も今いただきましたが、秦野市にあるベンチャー企業がロープウェイについて開発を進めているそうです。実現性はまだ先かもしれませんが、県央地域においても、新たな交通システムについて研究していこうという機運が高まっているところです。
また、鮎津橋の交通混雑については、例えば、堤防道路からまっすぐに元町に抜ける橋を考えることによって、大きな話ではありますが、混雑解消の一策として考えていくこともできるのではないかと思います。
交通混雑の解消については、引き続き、国県等と連携を図りながら、検討していきます。

(担当課:都市計画課、道路管理課)